

# 『ダメ出しの達人が ほめる達人に変身』

竹下 幸喜



Profile

竹下 幸喜(たけした こうき)  
ほめる子育て研究所 所長 一般社団法人日本ほめる達人協会 特別認定講師  
1967年生まれ。中学時代、陸上部に所属。キングオブアスリートと呼ばれる選  
成競技(3種競技)で全国優勝を果たす。福岡大学大学院卒業後、かねてからの  
夢である中学体育教師となる。部活指導中、ある生徒の指導をきっかけに、ほめる  
指導の効果に気づく。ほめて、認めて、励ます指導で、チームは総合優勝4回、  
全国駅伝大会出場と急成長。全国レベルの選手を育てる。学校では、生活指導を  
担当、叱る中にもほめる指導で、生徒の心と人間力の成長に力を注いだ。生徒だ  
けでなく、親や先生にもほめる効果を広げていきたいと、平成26年3月31日に20  
年勤めた教員を退職。関わった生徒は20年で延べ1万2千人。現在は、ほめる子  
育て研究所を立ち上げ、講演会、企業研修、等の活動をしている。

「靴は白、スカート下ば  
ろ、腰パンするな、眉毛そ  
るな、シャツ出すな、整髪  
料つけるな、茶髪にする  
な」と中学校教員時代は  
生活指導担当で、ダメ出し  
の達人でした。ダメ出し  
が悪いと言ってるわけでは  
ありません。その役割の人  
も必要です。ただ、20年間  
の教員生活の中で、怒鳴っ  
た後より「ほめた」後の方  
が、子ども達が輝き、笑顔  
になり、そして自主的な  
行動をしていく、と言うこ  
とに気づきました。それ  
は、ある生徒の指導がきっ  
かけでした。

その生徒はサッカー部。  
私は陸上部顧問。ある時  
「高跳びをやらせてくださ  
い」とその生徒が来まし  
た。やらせると、上手に跳  
んだ。ほめると満面の笑  
顔！するとまた跳んだ。  
「凄い!!こちらもテンショ  
ン高く言う、目を輝かせ  
どんどん挑戦していく。失  
敗を自分で修正していく。

叱る、怒鳴る、ダメ出しばかりの指導をしてきた陸上部員は、挑戦しようとしていない。自分で考えない。「ほめて、認めて、励ます」指導の効果にその時、気付きました。そこから、言葉に「プラス言葉」に変える努力をしました。ところが、今までダメ出しばかりをしていたので、プラスの言葉が出てこない。まずは本屋に行き本を大量に購入、セミナーにも参加、講演会のCDやテープを買う、自己啓発の80万円するCDを嫁さんには30万円と言って2セット買う(内緒ですよ)、などして「プラス言葉」を自分に注入しまくり、学校でプラス言葉を発するように心がけました。すると新しい学校に異動して3年目、チームはついに総合優勝。自分の言葉を「プラス言葉」に変えたただけでした。



「子ども達はほめられてない。ダメ出しばかりをされて自信をなくしている。その殻を破るのはほめ言葉だ」と言うことを確信しました。そしてもっと「ほめる」を極めたいと思

っていた時に、「ほめる達人協会」と出会い、そこで猛勉強。その内容をPTAで呼びかけました。が、うまくいかない。「どうやってほめていいかわからない」「どこをほめていいかわからない」という保護者の声。そこで気付いたのは、保護者の方もほめられてないこと。自分に自信を持ってもらいたいのは、父ちゃん母ちゃんだ！父ちゃん母ちゃんが自信を持ち、今の自分を輝かせて笑顔になれば、もっと子ども達は笑顔で元気に輝くはずだ！という気持ちがわき上がってきた。その気持ちを抑えきれなくなり、平成26年、3月31日、20年勤めた教員を退職し、ほめる子育て研究所を立ち上げ、「ほめる」体現者として「ほめる」を伝える活動をしています。

